

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成 25 年 8 月 11日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774900555		
法人名	有限会社 ケア・プラザ		
事業所名	れんげの里		
サービス種類	(予防)認知症対応型共同生活介護		
所在地	〒584-0084 大阪府富田林市向陽台1-4-16		
自己評価作成日	平成25年6月21日	評価結果市町村受理日	平成25年9月4日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を利用する場合	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成25年7月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の意志及び人格を尊重し、出来ない事はお手伝い、出来る事を見出し見守るケアを理念とし家族様や地域の方々への理解を深めその人のリズムに合わせた生活の場を提供することに努めています。又、隣接する提供医療機関とは24時間の対応が可能であり緊急時でも安心していただけます。職員は終末期の看取りケアにも対応可能で重度の認知症状の方でも寄り添いながら個別の対応が可能です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

「ケア・プラザれんげの里」は2階建て2ユニットのグループホームで、富田林市の丘陵の商業地域にあり、近くには総合病院、富田林市ケアセンター(複合施設けあぼる)や店舗等がある。隣接する内科クリニックと24時間体制で医療連携を図り、医療ニーズの高い利用者も安心して生活ができるように支援している。職員一人ひとりは認知症、虐待防止、救命処置等について、3ヶ月に1回以上を目標に外部で研修を受けている。そして受講後職員同士で内部研修を行うとともに、法人代表から高齢者の脱水、認知症への対応等の医学的な事柄を学び、毎月研鑽している。また、食事を楽しむことができる支援に力を入れており、季節の野菜等旬の食材を取り入れ、ユニット毎に利用者の希望を反映して独自の献立を作っている。食事中は利用者と職員が声を掛け合いながら、食事が楽しみなものになるよう支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見やすい場所に掲示し、職員は毎日ノートにて実践出来たかどうか確認を行っている	法人の理念「付き添い寄り添い見守るケア」「できないことはお手伝い、できることを見出すケア」「言葉づかいは尊敬と意を込めてやさしくゆっくり」「好みの献立を、温かい物は温かく、冷たい物は冷たく」「散歩、買物の励行」の5項目を居間兼食堂に掲示している。職員一人一人は、一週間毎に支援を振り返り、理念の項目別に自己評価し、ノートに記録し管理者に報告している。管理者は職員とともに、日々の支援が理念に沿ったものになるように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加盟し色々な催しに参加させて頂き交流を図っている	自治会に加入し、職員は会合にも出席している。利用者は、地域が開催する寄席や盆踊り等の行事に、職員とともに参加している。地域の溝掃除には職員が参加している。民話の紙芝居を行う地域のボランティアの人々や介護相談員との交流を、利用者は楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の相談ポスターなど地域の方の店先などに掲示させて頂き貢献している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の現状や取組状況等について報告し、皆様のご意見を参考に次に生かす様にしています	運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、家族、地域住民、民生委員、利用者、地域包括支援センターの職員、事業所の職員等が出席している。会議録は職員に回覧し情報を共有している。事業所から行事等について報告をしているが、双方向的な話し合いには至っていない。	出席者の意見や要望について双方向的な意見交換となるよう、議事運営の工夫等を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	取り組みの相談やその他会議など積極的に参加し協力関係を築くようにしている	市の担当者には事業所の運営状況や空室情報を提供し、市から法改正等の情報の提供を受ける等情報交換に努めている。また、市担当者が関わっている徘徊高齢者ネットワークやグループホーム交流会等に参加し協力関係を築くように努めている。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関はベルに替え、鍵を無くし身体拘束については各自研修などで積極的に理解を深めるよう努めている</p>	<p>毎年、身体拘束をしないケアに関わる外部研修に職員が参加し、内部研修にて職員全員で情報を共有している。玄関は夜間を除き開錠しているが、建物の前が駐車場に面しており安全確保のため門扉を施錠している。利用者が外出しそうな様子を感じた時には、職員同士で連携し、そっと寄り添い利用者の思いを聴きながら、見守りや一緒に外出する体制を取っている。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員は外部研修等で学ぶ機会を持ち、主治医とも相談させて頂き、夜間宿直体制をとり勤務者が一人にならないように徹底している</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>月1回のミーティングや外部研修等で理解を深め関係者と話し合い活用できるように取り組んでいる</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>介護保険制度及び事業所のサービス内容について資料を用意し、入居者様やご家族様に説明している</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>第2土曜日・日曜日を家族会として来里された方の意見を聞かせて頂き、その意見を反映した業務に取り組んでいる</p>	<p>介護支援専門員が中心となり利用者や家族が話し易い雰囲気づくりに努めている。家族会とともに家族訪問時に率直な意見や要望を聴き取るように努めている。訪問の少ない家族に対しては、介護支援専門員がお便りと一緒に利用者の写真を送り、その際に電話で意見等を聴いている。出された意見や要望は利用者の希望やケアに関わるものが主体であるが、毎日の申し送り時に職員間で検討・共有し、管理日誌に記録し支援等に反映している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月1回のミーティング時には、職員からの発表の場もあり、自由に意見や提案を話せる機会がある</p>	<p>毎月のユニット別の職員ミーティングには法人代表も出席し職員の意見を聴くようにしている。管理者は職員ミーティングだけでなく日頃の職員との関わりの中で話し易い雰囲気づくりに努めている。職員からの意見は主に支援方法の改善に関わるものであり、職員ミーティングや毎日の申し送りで職員間で共有し支援の改善に反映している。</p>	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	内部研修、外部研修の機会を持ち、各自向上に努めている		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	内部研修、外部研修に参加できる様声かけと機会を設けている。他地域の研修にも参加できる様に情報収集・公開を行っている		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	なわなワネット研修での施設部会やグループホーム交流会などで、伝達研修を行っている。パンフレットなどの交換も行っている		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	しっかりと話を聞き、受け止めることで信頼関係を築き心を開いてもらえるよう努めている		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	細かくわかりやすいように説明し納得して利用して頂けるように努めています。また、笑顔で受け入れるように努めています		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	必要としている支援はもちろん、要望を確認し他のサービス利用に努めている		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	私達の先輩として傾聴し苦勞されたこと、子育てのやり方など多くを学ばせて頂いております。さらに特技や趣味なども学ばせて頂いております		

19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの中での出来事や昔話を聞かせて頂き御家族様と一緒に支援させて頂いております		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的なれんげ通信を発行し行事など本人様の写真を掲載し家族様に様子を伝え、なじみの店へ買い物も行っている	近隣の洋服店、菓子店やコンビニエンスストア等での買物や複合施設あばるでの寄席等に職員と一緒に出かけることが利用者の楽しみとなっている。行き付けの美容院や利用者の家族や知人の訪問等、馴染みの場所や人との関係が途切れないように支援している。馴染みの関係の情報は申し送り時に伝達し生活記録に残している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション活動の援助の強化、利用者様同士の趣味の共有などを考え、席が隣り合わせにする等気配りをしている		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後もスーパーなど近隣で会う事があり家族様から相談を受けることが多々あります		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9 ○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りコミュニケーションをとり、その中から得るようにしています。朝一番のコーヒー・紅茶など一人一人の今迄の暮らしに合わせたケアを行っている	職員は利用者担当制にしているが、全職員が協力して一人ひとりの利用者の思いや意向を聴き取っている。聴き取った情報は申し送り時に伝達し生活記録に残している。コミュニケーションの取りにくい場合は、言葉かけに対する利用者の表情等から汲み取り支援に反映するように努めている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	基本情報の把握と日々の会話の中で、くみ取り反映するよう努めている		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の観察の中、職員同士の情報交換等で把握し支援している		

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人様や家族様の意見を尊重しつつ職員が意見を出し出来る限り本人様の希望を優先させる介護計画にしている</p>	<p>介護計画は6ヶ月毎に、また利用者の状態の変化等に応じて随時に見直している。見直しの際には、予め聴き取った利用者や家族の意見等を反映している。ケアカンファレンスには管理者、介護支援専門員、介護職員の他、協力医等関係者も必要により参加している。家族には参加を呼びかけている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>状態の変化ノート、急変ノートを使い、申し送り等で情報を共有している</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>日々個別観察に力を注ぎ利用者様の都合に合わせたサービスをしています</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>中学生の体験学習の受け入れ、運動会への参加見学、ぴあ介護相談員の方にも協力頂いております</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>家族様が希望される医療を受診されている。また、専門医に診て頂けるよう支援しています</p>	<p>事業所の協力医を、かかりつけ医に希望する利用者・家族等が殆どである。協力医による月2回の内科の往診があり、状態に応じて受診回数を増やしている。週1回の歯科の訪問があり、眼科、皮膚科には職員が同行して受診している。受診結果は医療機関連携記録に記録し、状態の変化に応じて状態変化記録や連絡ノートにも記録し職員間で共有している。家族には変化の都度連絡している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>定期的診察や往診された時などに気付いた事を医療連携ノートを作り記入しておきそれを伝え支援している</p>		

32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	地域医療連携と主治医との話し合いにより利用者と家族の要望を反映している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における方針を入居時や状態が悪化した時、主治医を交え医療連携体制と看取り指針を作成確認し、支援しています	重度化や終末期における看取り指針を作成し、入居時に利用者・家族、事業所、協力医と話し合い、同意書を交わしている。急変時や終末期には、協力医から家族等に利用者の状態に関わる説明があり、事業所は看取りの方法について家族の同意を得ている。家族、協力医、看護師と職員等が連携して支援に取り組んでおり、昨年は2名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時ノートを作り全員で共有している。事故発生時、発生後も反省会を開き報告書を作成し内部研修にて話し合いをもっている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導により避難訓練等年2回実施しており、緊急連絡網など用意しています	年2回、火災や地震を想定した避難訓練および消火器の使用訓練を実施している。訓練では防災訓練マニュアルに沿って、非常口、連絡網、避難経路・避難場所等を確認している。火災通報器、スプリンクラーを設置している。災害に備えて3日分の飲料水と食料品を備蓄している。地域との協力体制の構築について運営推進会議に提案しているが、具体的な活動には至っていない。	運営推進会議を活用し、地域の協力が得られるよう、段階的且つ具体的な検討を粘り強く続けることを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を大切にし、マニュアルなどを作り理念を重んじたポジティブな言葉掛けに努力しています	年に1回、プライバシー保護に関する内部研修を実施している。職員は毎日の支援が「言葉づかいは尊敬と意を込めて、やさしくゆっくり」の事業所理念に沿ったものになっているかの振り返りを行っている。明るい言葉かけや対応に努め、利用者の誇りを傷つけないよう心がけている。個人記録等は管理室の鍵のかかる戸棚に保管している。	
----	----	---	--	--	--

37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人様の思いや希望を特に大切にしよう職員全員が受け止め本人様が納得できる様努めている</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>散歩、昼寝、入浴など一人一人のペースに合わせて強制しない自由にして頂く支援を行っています</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>モーニングケア時御自身で髪の毛をといで頂いてます、時には全員に化粧をして鏡をご覧になられ、ホームに美容のプロの方に出張して頂いてます</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>理念通り温かい物は温かく、冷たい物は冷たく嚙下に気遣った大きさや味付け、利用者様と一緒に準備や片づけを楽しみながら行っています</p>	<p>職員が献立を作成し、食材は1週間単位に、主に生活協同組合の宅配で購入し、不足分は近隣のスーパーマーケットで調達している。利用者が一人ひとりの能力に応じて、食事の準備・片付け等に関われるよう個別に支援しており、2階には利用者の手伝いカレンダーがあり、後片付け等利用者が出来ることを行っている。花見や母の日等には昼食を弁当にしたり、居間兼食堂にたこ焼きやおでん等の屋台を作ったり、年に数回近隣のファミリーレストランで外食する等食事が楽しめるように工夫している。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食べられた量、水分摂取量の少ない人にはどう対応すればよいか手探りですが個別に対応した支援をさせて頂いております</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>週一回の歯科衛生士による検診と毎食後の口腔ケアの声かけと誘導を徹底しています</p>		

43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>時間をきめてトイレ誘導することにより失敗を防いでいます</p>	<p>利用者毎に水分補給量、排泄パターン等を生活記録に残し支援している。止むを得ずオムツを使用している利用者を除き、利用者からの訴えや職員によるトイレ誘導で可能な限りトイレでの排泄ができるように支援している。日中排泄が自立していても、移動がスムーズでない等で、夜間はトイレが間に合わない利用者がポータブルトイレを使用している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>利用者様の便通に応じた対応をしています。便秘体操にも取り組んでいます</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>体調など考慮しながらあらかじめの予定は決めておりますが、本人が入りたい時に入浴して頂いております。タイミングに合わせて支援しています</p>	<p>入浴は月曜日から土曜日までの週2回、午後1時30分から3時頃と決めているが、利用者の希望や体調にできるだけ合わせて、入浴日や時間帯を調整している。車椅子使用者の入浴時には2人で介助している。入浴を嫌がる利用者には、時間や職員を変更したりする等工夫をしている。入浴介助は同性介助が原則であるが、異性介助のときもある。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>利用者様の要望を優先しています。一人一人に合わせて朝ゆっくり寝たい人には朝食など遅くする支援をしています</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>ノートなどに個別に記入して副作用など薬の説明をもって支援しています</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>生活リハとして個々にお手伝いなどして頂き又レクリエーションなどで役割を分担し利用者様が楽しめるよう支援しています</p>		

49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>毎日天気さえ良ければ、散歩に出かけます。本人の希望を把握し外食にも出かけています</p>	<p>天気がよく、利用者の体調がよい日は毎日でも職員が同行して散歩に出かけている。散歩コースを予めいくつか設定し、近隣の複合施設があれば散歩、コンビニエンスストアや果物屋への買物と散歩等、その日の利用者の希望に沿って決めている。また、職員は利用者の希望で、行きつけの美容院に同行したり、月に1～2回、利用者と一緒に近隣の複合商業施設に買物や外食に出かけている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理など生活リハに向けて近くのお店などを利用又は自販機を利用し金銭IADL強化に努めています</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>手紙を散歩時に投函して頂いており、電話も自身で掛けられる方は自由にできるよう支援しています</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>手作りカレンダーや馴染みの写真の掲示など生活感を取り入れて工夫しています</p>	<p>利用者は居間兼食堂の中央に置いたテーブルを囲むように座り、テレビを見ながらゆっくりと寛いだり、ジグソーパズルに取り組んだりしている。キッチンカウンターを隔てて台所があり、食事の準備をする職員も利用者と気軽に声をかけ合い明るくリラックスした雰囲気になるように努めている。壁には職員と利用者で一緒に作った七夕まつりの飾り物や季節の花の紙細工を貼っている。また、今年の介護目標の他、手作りカレンダーや行事の写真等を掲示し、生活感や季節感を取り入れて居心地よく過ごせるように工夫している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングでの机の配置など居場所の工夫をしています。気の合う方同士が話せる工夫をしています</p>		

54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅より持ち込みのカレンダー又は家族様の写真を貼ったり持ち込まれたり工夫しています</p>	<p>居室は畳の和室にベッドを置いている。ベッド、布団、テレビ、エアコン、時計等は備え付けてある。押入れの衣装ケースには自宅より持ち込んだ洋服等衣類を収納している。利用者の希望により馴染みの整理ダンス、家族の写真、好みの時計、カレンダーや生活必需品を持ち込み、本人が居心地よく過ごせるように支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>自立に近い生活が出来るように工夫しています</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができていく	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない